

事務局 だより

○第51回定時総会開催

第51回定時総会を2月18日(火)午後1時から、横浜市中区山下町の「ホテル ニューグランド レインボーボールルーム」において開催しました。

議決権を有する80会員のうち78会員（本人出席22会員、委任状または書面表決書の提出56会員）が出席し、中丸裕嗣理事（有）ナカマル商会）の司会により始まりました。

冒頭、原島利光会長による挨拶があり、続いて、来賓としてお越しいただいた神奈川県環境農政局農水産部畜産課の島村剛課長代理、横浜市医療局健康安全部生活衛生課の堀内隆史担当係長及び川崎市健康福祉局保健医療政策部生活衛生担当の田野口みずほ課長補佐の皆様からご挨拶をいただきました。

その後司会者が定款第16条の規定に基づいて総会議長の選任について諮ったところ、司会者一任の声があり、司会者より大曾根一喜氏（株アルファ住宅）が議長に指名されました。



（第51回定時総会風景）

大曾根議長の議事進行により議事に入り、第1号議案の「令和6年度計算書類及びこれらの附属明細書並びに財産目録の承認」と報告事項の「令和6年度事業報告」について、一括して事務局長から説明がありました。

続いて、高橋良一監事から監事監査の結果について報告の後、これらを一括審議したとこ

ろ、質疑・意見ともになく、全会一致をもって第1号議案が承認されました。

その後、大曾根議長は他に議案がないことを確認のうえ、総会の閉会を宣言し、解散しました。

○創立55周年記念大会開催

当協会は、昭和45年に「神奈川県そ族害虫防除協会」として発足してから55周年を迎えたことから、定時総会終了後に、同じ場所において創立55周年記念大会を開催しました。

四部構成による大会の第一部は、伊勢山皇大神宮の神職をお呼びして、「そ族こん虫慰霊祭」を執り行いました。



（第一部 そ族こん虫慰霊祭）



（第二部 特別講演会）

続く第二部は特別講演会として、一般社団法人石川県ペストコントロール協会の酒井壮司会長を

お招きして、「令和6年能登半島地震被害状況とその後」についてご講演いただきました。

第三部は、「感謝状及び表彰状授与」を行いました。

協会所属30年以上の会員企業には会長感謝状の授与、役員功労者及び委員功労者には功労者表彰、そして勤続年数に応じた優良社員表彰をそれぞれ実施しました。



(第三部 感謝状及び表彰状授与)

第四部は関係者や被表彰者を交えての懇親会が開催され、来賓による挨拶とともに、出席者間では昔話や今後の協会の発展などに話が弾んでいました。

○令和7年度会務の概況

(他の頁で紹介されていない会務の概況をご報告します。)

○公衆衛生予防事業(主な受託事業)

○横浜市中区内の重点地区におけるネズミ駆除事業



(駐車場で資材を受け取り)

この事業は、横浜市中区の委託に基づき、重点地区のねずみ防除を実施したものです。域内を11地区に分けて、感染症予防衛生隊登録会員13会員が1月20日から2月17日までの間に5日間実施しました。



(毒餌を設置)

○蚊媒介感染症のサーベイランス事業(横浜市)

この事業は、横浜市の委託に基づき、感染症予防衛生隊登録会員8会員が実施したものです。5月1日～10月31日までの間、2週間ごとに市内16か所の公園等で指定の方法により蚊を採取し、ウイルスチェックを行う市衛生研究所に搬送しました。

○千葉県鳥インフルエンザ発生に伴う関係車両消毒事業

この事業は、関東甲信越地区ペストコントロール協会の「感染症発生時等における防疫業務の協力に関する協定」に基づき、千葉県にて発生した鳥インフルエンザに伴い設置された千葉県内3か所の消毒ポイントに感染症予防衛生隊登録会員7会員を派遣したものです。(実施時期 2月9日～3月14日)

(作業時間 24時間3交代制)

○スズメバチ駆除等各種受託事業

(横浜市・川崎市)

この事務は、特定の条件を満たした場合に、横浜市、川崎市からの委託に基づき実施したものです。

令和7年度の実績は、横浜市2件、川崎市5件でした。

○死亡野鳥回収業務受託事業(神奈川県)

この事業は、死亡野鳥を神奈川県からの指示に基づき安全かつ円滑に県へ引き渡すことで、高病原性鳥インフルエンザウイルスの県内への侵入を早期に発見することを目的として、県と業務受託契約を結んだものです。

令和7年度の実績は、4件11羽でした。

◎台湾へのヒアリ調査団派遣事業の概要

○台湾へのヒアリ調査団派遣事業

11月23日(日・祝)から25日(火)にかけて、日本のヒアリ研究の第一人者で、東京都立大学大学院理学研究科の寺山守先生を団長とし、協会会員など9名の団員からなる調査団が台湾・台北市の関連施設を訪問し、ヒアリ類に関する調査を実施しました。

これは、3月に行った協会の技術セミナー(内容は65頁参照)において、寺山先生を講師としてヒアリ類に関する講義と同定を行い、その後受講生と先生を交えた懇親会において「『ヒアリの防除と対策』について、先進的に取り組んでいる台湾に調査に行こう」と盛り上がったことから実現したものです。調査の詳細については、寺山先生のレポートを25頁から33頁にかけて掲載しておりますので、ご覧ください。

台北市到着後、専用車にて開発予定地区の



道路を走行中、車窓からヒアリの蟻塚と思われるものを発見し、直ちに降りて調査しました。ヒアリに自分の手をわざと噛ませて痛みや腫れの反応を見る研究熱心な団員も複数いて、この調査への意気込みが感じられました。

2日目には国立台湾大学の国家ヒアリ防除センターを訪問し、台湾における現状や、対策などを伺うとともに、モンスターズ・アグロテック社では企業としての対策を伺い、ドローンによる薬剤散布やヒアリ探知犬の実演を目にしました。



懇親会では同社の林社長やスタッフと交流し、次回は神奈川県協会をご訪問いただき、さらに交流を深めることを約束しました。

団員の方々から「大変実りのある研修ができた」との声をいただき、事務局としても満足のいく調査研究ができたことを実感しました。これは何よりもヒアリ研究の第一人者である寺山先生が台湾との交流があり、ネットワークを活用してピンポイントで訪問先や関係者にご調整いただいたことから実現できたことで、先生には深く感謝を申し上げる次第です。

折しも日本各地のコンテナターミナルにおいてヒアリが発見され、駆除・防除が行われています。今後、市街地にて発見されるのも時間の問題ともいえる中で、今回の調査にお

いて、「神奈川県協会が全国に先駆けてヒアリに関する知識と対策について学ぶことができた」との認識を一同新たにしました。

◎令和7年度害虫相談事業の概要

当協会の主要事業の一つである電話による相談事業の令和7年における受付件数は10,714件で、昭和51年度の電話相談開設以来最高件数だった前年をさらに上回る件数となりました。

ハチの相談の多い7月から9月にかけては、一日に100件以上の相談を受ける日もありました。

電話相談件数の推移

()内は構成比で%

種類	7年	6年	5年	4年
ハチ	4,195 (39.2)	3,925 (37.6)	3,876 (41.4)	4,515 (50.0)
ネズミ	3,562 (33.2)	3,610 (34.6)	2,702 (28.8)	2,153 (23.9)
鳥類	935 (8.8)	865 (8.3)	782 (8.3)	730 (8.1)
獣類	922 (8.6)	890 (8.5)	856 (9.1)	629 (7.0)
シロアリ	215 (2.0)	211 (2.0)	209 (2.2)	194 (2.2)
新型コロナ 消毒	— (0.0)	— (0.0)	— (0.0)	37 (0.4)
トコジラミ	143 (1.3)	209 (2.0)	216 (2.3)	147 (1.6)
その他	742 (6.9)	715 (6.9)	730 (7.8)	609 (6.8)
合計	10,714 (100)	10,425 (100)	9,371 (100)	9,014 (100)

害虫種類別で最も多かったのは例年通りハチで、4,195件と前年度より270件増加。次いでネズミの3,562件でした。以下鳥類935件(ハト313件・コウモリ226件・カラス87件・他309件)、獣類922件(ハクビシン221件・アライグマ159件・タヌキ48件・他494件)で、シロアリは前年比増でした。新型コロナ消毒は新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったことなどから、0件という状況が続いています。



(電話相談の様子：ピーク時には3本の電話すべてが塞がることも)

◎協会図書の貸出

事務局では会員の皆様に専門図書等の貸出を行っております。

業務上、昆虫の生態や環境に興味をお持ちの方、また、顧客から頼まれた不明虫についての調べもの等に是非、協会図書をご利用下さい。

アリ、クモ、ゴキブリ、ダニ、ネズミ、ハチ、蚊、虫、昆虫、農薬、家屋害虫、毒害虫、甲虫、動物、樹木害虫、食品害虫、細菌、生態学、標本、辞書、分類学、図鑑、雑学その他の図書が4,500冊以上配架されています。

貸出期間は貸出日より2週間です。

郵送による貸し出しもできますので必要な方は協会事務局までご連絡ください。

図書目録は協会ホームページよりご参照できます。また本の購入等ご希望がありましたら協会までお聞かせください。



(協会事務局にある書架)